



園だより

文京区立第一幼稚園

令和6年度7月号

URL <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/dai1-kg/>

生活の中で育つ力

園長 田村 秀子

蒸し暑い季節ですが、梅雨の晴れ間に子供たちがプール遊びをしている姿は、気持ちよさそうで、楽しそうです。七夕に向けて子供たちが作り始めた笹飾りも、色合いが美しく、風に揺れて涼しげです。

園庭では子供たちが土を混ぜ、苗を植えて水やりをしてきた夏野菜がぐんぐん育ち、たくさん実をつけました。キュウリ、ナス、ピーマンなど、小さく切って、シンプルな味付けで炒めたり味噌汁にしたりすると、家では食べないと聞いていた子供たちも食べていました。自分たちが育てた野菜の味は格別ようです。皆で一緒に食べることで、少しでも味見することで、より美味しく感じたのでしょう。

先日の参観日には学年ごとに昨年度より長い時間、子供たちの姿を見ていただきました。参観後のアンケートには「年少の時よりも身支度など一つ一つの行動が早くなったように感じました」「小さいゴミ箱をテーブルに置くと、紙片などを入れることができ、常にきれいな状態が保たれることが分かりました」「ハサミ、クレパスは使ったらしまう、それから次の作業へと順序よく動いていました」など、生活する姿についての感想もたくさんありました。

確かに、子供たちの様子を見てみると、「こんなに散らかしていて、片付けられるのかな？」と思う時もあります。でも遊びの楽しさを分かってくれている担任の先生の声掛けで、もっと遊びたい気持ちを「また明日もやろう」という気持ちに切り替え、次の活動を楽しみに片付けに取り掛かり始めています。自分の力で少しずつ片付けていくことは楽しくて、先生が「わあー、きれいになってきた」「積み木の持ち方が上手だね」「きれいになると気持ちがいいね」などの言葉で、片付けも楽しくなり、最後まで頑張っています。年長の保育室では「これは自分で片付けたいんだ！」と主張している子がいました。友達に手伝ってほしくないようです。「そうか。一人でやりたいんだね。じゃあ頑張る」と見ていると、大きな布の端を合わせてきれいに畳み、布を入れる引き出しに片付けていました。年長児が皆で小さいスポンジをもってプールの中を掃除した時も、きれいにこすって達成感を味わいました。

家ではかわいくて、まだ赤ちゃん扱いしてしまうこともあるかもしれませんが、子供たちができることはいろいろあります。遊具や材料を分類する、同じものを集める、端材を使えるか使えないか判断する、写真を見て同じように片付ける、細かいゴミも拾う、時にはホウキやチリトリ、雑巾を使うなど、どれも大切な経験です。ゆっくりでも自分で考えて行うことで、知的な面、用具を使う技能、友達と声を掛け合い動きを合わせる力など、様々な力が育っていきます。ロボットやAIが何でもやってくれる時代となってきていますが、幼児期からの様々な体験の機会は残していきたいものだと思います。

自分で生活していく力が育つと、遊びや活動を手早く始めたり、様々な用具や材料を用途に合わせて使ったり、自分の持ち物をなくさずに管理したりして、気持ちよく生活する力につながっていきます。これからも皆で話し合う機会や日々の体験を大切に、生活する力を育てていきたいと思っています。